

2023年2月28日 全7頁

Indicators Update

2023年1月鉱工業生産

外需の悪化や中国の春節要因により生産指数は大幅低下

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2023年1月の生産指数は前月比▲4.6%と3カ月ぶりに低下した。輸出比率の高い品目の低下が目立っており、外需の悪化の影響が色濃く表れた。もっとも、中国で春節が1月にずれたことで輸出が下振れしたという側面もあることから、全体の動きは均して見る必要がある。経済産業省は基調判断を「総じてみれば、生産は弱含んでいる」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、供給制約の緩和などによる国内向け製品の増産と外需の縮小が拮抗し、横ばいで推移するとみている。国内では半導体不足の緩和などによって主力の自動車生産が持ち直している。他方、輸出向け製品の生産は米欧の景気減速によって今後も伸び悩むだろう。経済回復が進む中国向けについても、米国が日本に要請した半導体関連財の対中輸出規制によって下振れするおそれがある。
- 2023年3月8日に公表予定の1月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲1.1ptの96.1、一致CIが同▲3.4ptの95.7と予想する。予測値に基づく、一致CIによる基調判断は機械的に「足踏み」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2022年							2023年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
鉱工業生産	+9.2	+0.8	+3.4	▲1.7	▲3.2	+0.2	+0.3	▲4.6		
コンセンサス								▲2.9		
DIR予想								▲2.6		
生産予測調査									+8.0	+0.7
補正值(最頻値)									+1.3	
出荷	+5.0	+1.2	+2.8	▲2.5	▲1.7	▲0.1	▲0.9	▲3.1		
在庫	+1.9	+0.6	+0.7	+2.9	▲0.5	+0.3	▲0.4	▲0.9		
在庫率	▲1.4	+3.8	▲3.0	+5.1	▲4.5	+3.3	+1.5	+2.5		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】輸出比率の高い品目を中心に生産指数は3カ月ぶり低下

2023年1月の生産指数は前月比▲4.6%と3カ月ぶりに大きく低下し、コンセンサス（同▲2.9%、Bloomberg 調査）を下回った。輸出比率の高い品目の低下が目立っており、外需の悪化の影響が色濃く表れた。もっとも、中国で春節が1月にずれたことで輸出が下振れしたという側面もあることから、全体の動きは均して見る必要がある。また、生産指数は輸出数量指数に比べて底堅く推移している¹。外需が弱い半面、国内向け製品が下支え要因となっているようだ。経済産業省は基調判断を「総じてみれば、生産は弱含んでいる」に据え置いた。

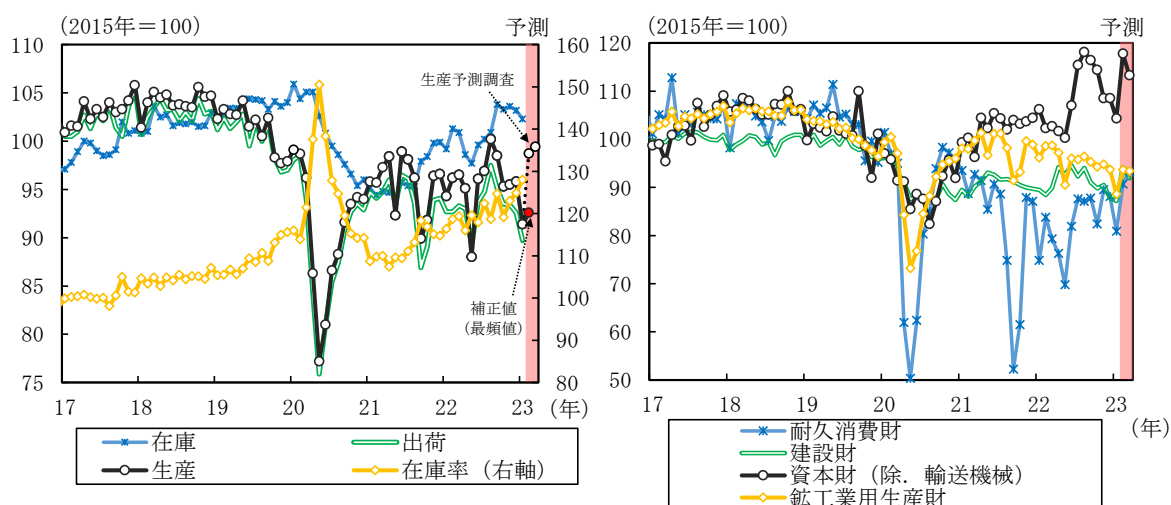
生産指数を業種別に見ると、15業種中12業種が前月から低下した。自動車工業（前月比▲10.1%）では普通乗用車や駆動伝導・操縦装置部品などが押し下げた。後述するように足元では国内の自動車販売が持ち直しているが、生産は中国での自動車需要の急減もあって低調だった。その他の業種では、生産用機械工業（同▲13.5%）で半導体製造装置などが、電子部品・デバイス工業（同▲4.2%）でモス型半導体集積回路（メモリ）などが押し下げた。メモリ半導体の需要減に加え、いずれも中国への輸出比率が高く春節の影響を受けたことが要因とみられる。

財別では、生産財（前月比▲5.2%）、耐久消費財（同▲8.2%）、資本財（除. 輸送機械）（同▲3.9%）、建設財（同▲0.7%）が低下した一方、非耐久消費財は横ばいであった。

【出荷・在庫】出荷の減少が継続し在庫率指数は3カ月連続の上昇

1月の出荷指数は前月比▲3.1%と5カ月連続で低下した。業種別では15業種中10業種が低下した。自動車工業や生産用機械工業などが全体を押し下げた。財別では、生産財、耐久消費財、資本財（除. 輸送機械）、非耐久消費財、建設財のいずれも低下した。在庫指数は同▲0.9%と2カ月連続で低下した。在庫率指数は、出荷の減少を受けて同+2.5%と3カ月連続で上昇した。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）

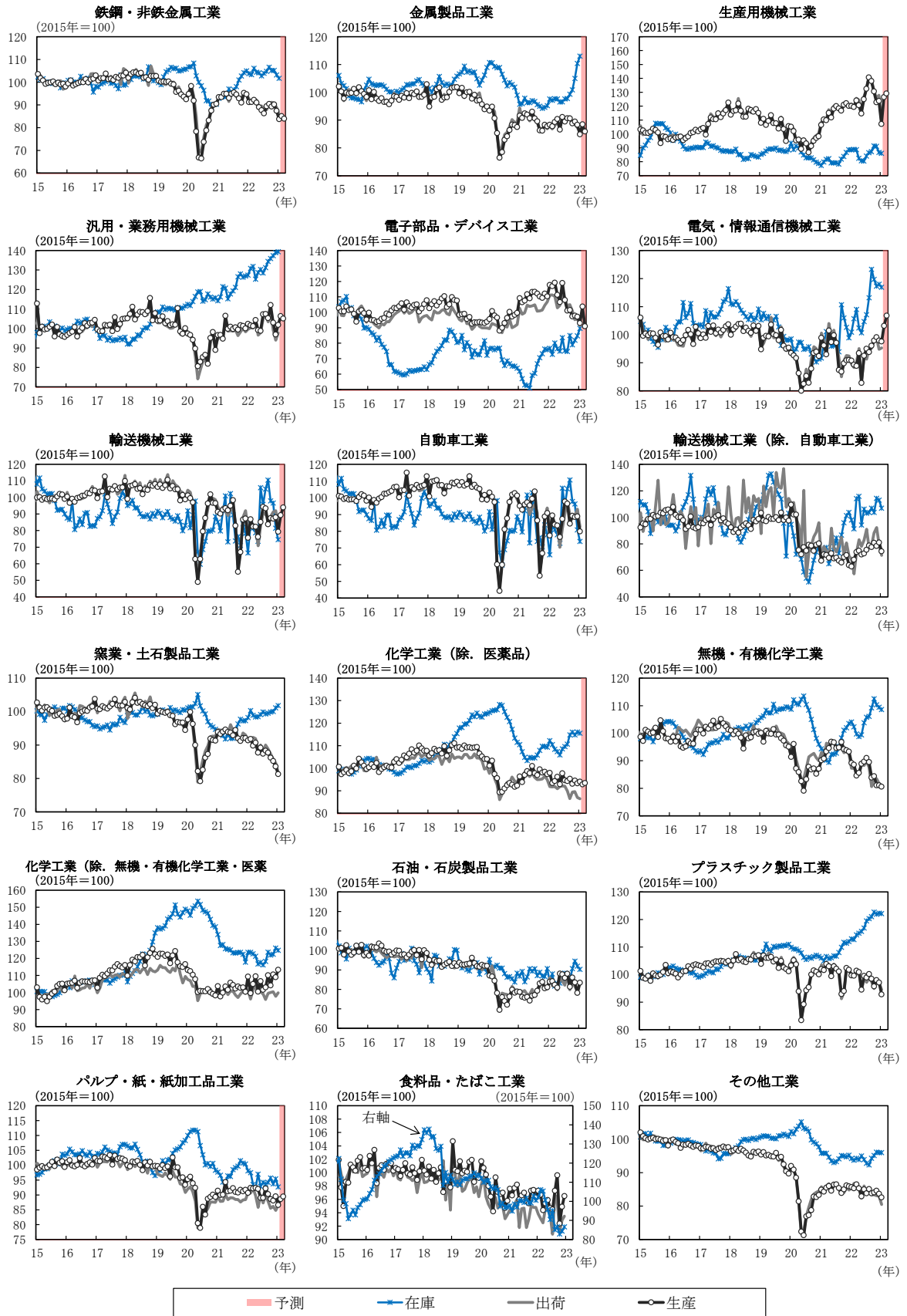


(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值（最頻値）。そのほかシャドウ部分の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

¹ 輸出数量の詳細については拙稿「[2023年1月貿易統計](#)」（大和総研レポート、2023年2月16日）を参照。

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】自動車生産は順調に回復も外需の縮小や対中輸出規制が重しに

先行きの生産指数は、供給制約の緩和などによる国内向け製品の増産と外需の縮小が拮抗し、横ばいで推移するとみている。日本自動車販売協会連合会および全国軽自動車協会連合会によれば、2023年1月の国内新車販売台数（乗用車）は前年比+17.4%であった。日本のメーカー（輸入車除く）に限れば同+19.4%と、国内では半導体不足の緩和などによって主力の自動車生産が回復基調にあるようだ。例えば、トヨタ自動車は3月の世界生産計画を90万台程度（うち国内が約35万台）としており、2月の75万台程度（うち国内が約30万台）や1月の70万台程度（うち国内が約20万台）からの大幅増産を見込んでいる。

なお、将来的には海外で現地生産を行う自動車メーカーが外需の縮小によって将来的に国内に回帰する可能性もある。自動車産業は裾野が広く、国内での増産の影響が他業種に波及する効果にも期待できよう。

他方、輸出向け製品の生産は米欧の景気減速によって今後も伸び悩むだろう。経済回復が進む中国向けについても、米国が日本に要請した半導体関連財の対中輸出規制によって下振れするおそれがある。日本から中国向けの半導体や同製造装置は輸出総額の1.1%（2022年、財務省「貿易統計」）を占めることから、輸出関連統計との連動性が高い生産指数を左右する可能性には注意が必要だ。

製造工業生産予測調査によると、2月は前月比+8.0%（計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同+1.3%）と見込まれている。業種別では11業種中9業種が上昇する見込みであり、1月の生産が低調であった生産用機械工業（同+18.1%）や輸送機械工業（同+12.6%）、電子部品・デバイス工業（同+11.5%）などで増産が計画されている。中国での春節要因が剥落するほか、2022年12月の「ゼロコロナ」政策の撤廃を受けて中国向け製品の生産が活発化するとみられる。

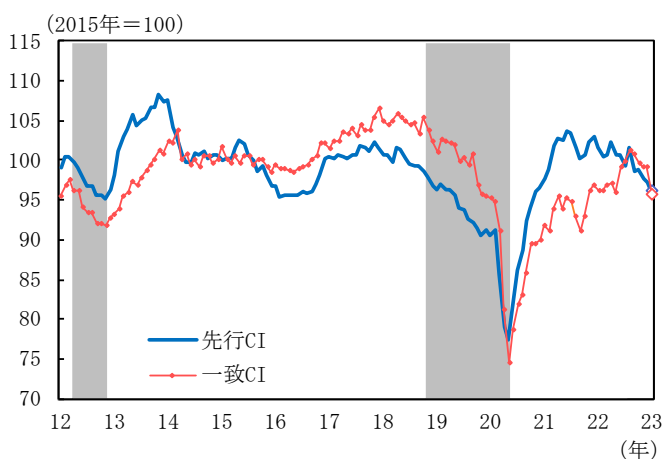
3月は前月比+0.7%と見込まれている。輸送機械工業（同+5.2%）や電気・情報通信機械工業（同+3.5%）、生産用機械工業（同+2.1%）などで増産が見込まれている。他方、2月に反動増が見込まれる電子部品・デバイス工業（同▲12.3%）では、引き続きメモリ半導体などの需要減が重しとなり3月は減産に転じるとみられる。

【1月景気動向指数】一致CIは5カ月連続で低下の見込み

鉱工業指数の結果を受け、3月8日に公表予定の1月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲1.1ptの96.1、一致CIが同▲3.4ptの95.7と予想する(図表4)。先行CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数や最終需要財在庫率指数、中小企業売上げ見通しDI、マネーストック(M2)などが悪化した。また一致CIでは構成指標のうち、耐久消費財出荷指数や鉱工業生産財出荷指数、生産指数(鉱工業)、投資財出荷指数(除輸送機械)などが悪化した。この予測値に基づくと、1月の基調判断は機械的に「足踏み」に据え置かれる。

先行きの経済活動は持ち直しが進むとみている。2022年10-12月期の実質GDP(1次速報)は前期比年率+0.6%と、民間在庫変動の下振れを主因に市場予想を下回った。経済活動の活発化による「意図せざる在庫減」が発生したとみられ、実態としては実質GDP成長率が示すよりも景気の回復基調は強い。2023年1-3月期以降も、感染状況の改善や供給制約の緩和、政府によるエネルギー高対策、インバウンド消費の増加などによって景気回復が進むだろう。他方、財輸出は外需の悪化などにより停滞するとみている。米欧では大幅な利上げによって需要が縮小しているほか、中国向けについても前述の半導体関連財の輸出規制が重しとなるだろう。

図表4：景気動向指数(先行CI、一致CI)と基調判断の推移



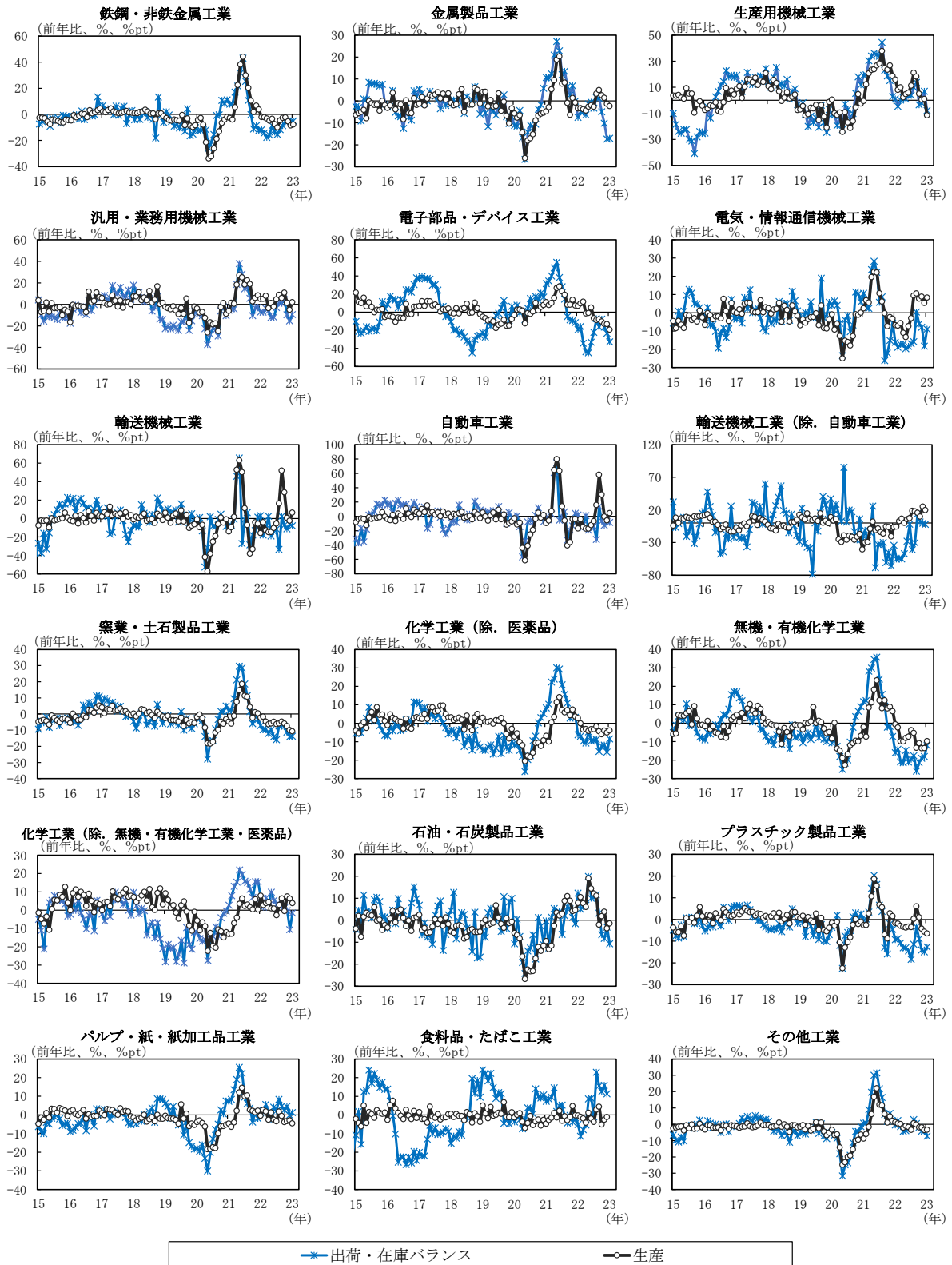
	基調判断	基調判断
2022年1月	足踏み	2023年1月 足踏み
2月	改善	
3月	改善	
4月	改善	
5月	改善	
6月	改善	
7月	改善	
8月	改善	
9月	改善	
10月	改善	
11月	改善	
12月	足踏み	

(注1) 左図の直近は大和総研による予測値。右図の2023年1月の基調判断は大和総研予想。

(注2) シャドーは景気後退期。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



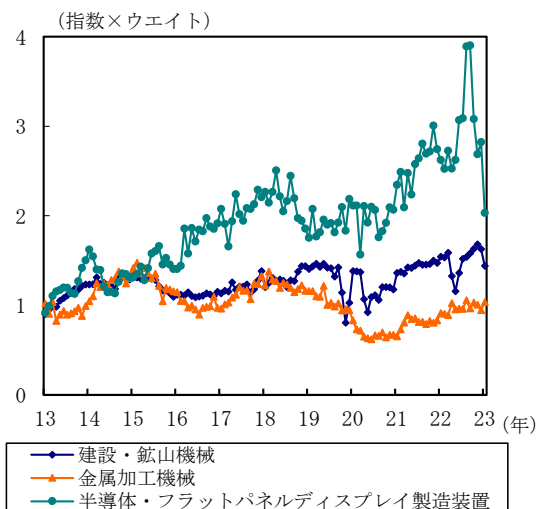
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

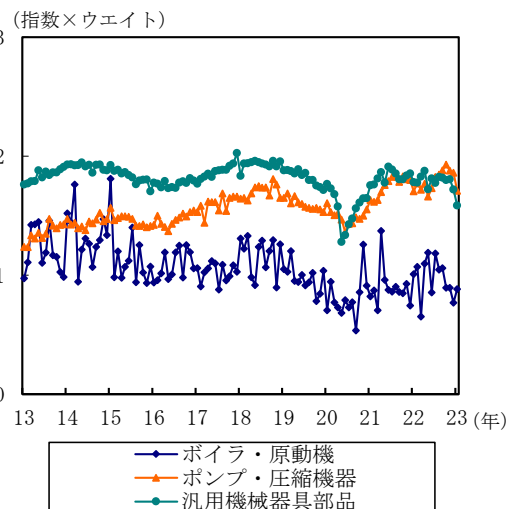
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

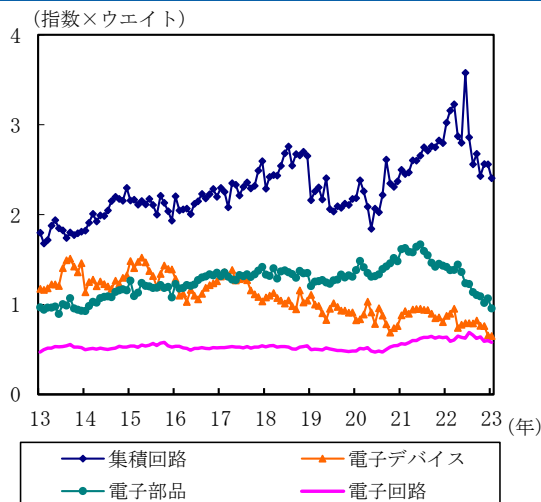
生産用機械



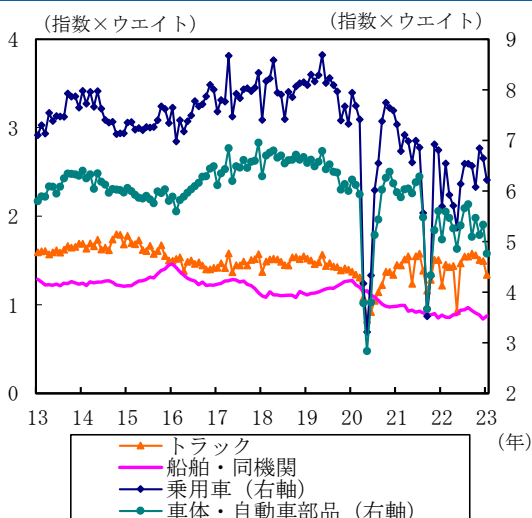
汎用・業務用機械



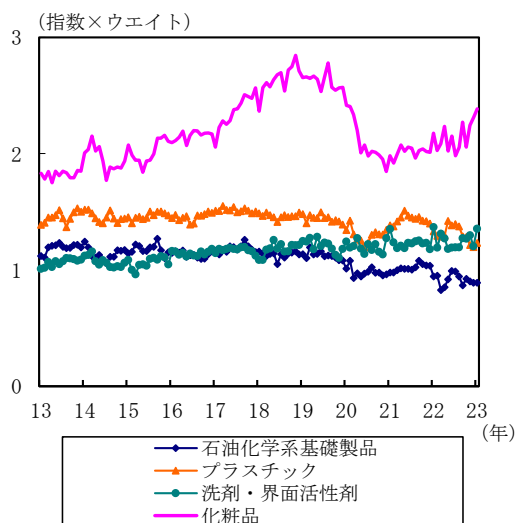
電子部品・デバイス



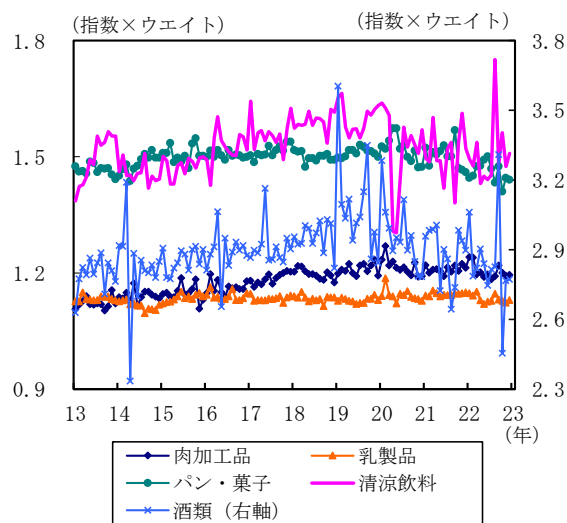
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成